

男性の単身世帯の消費

- 家計調査（単身世帯）結果より -

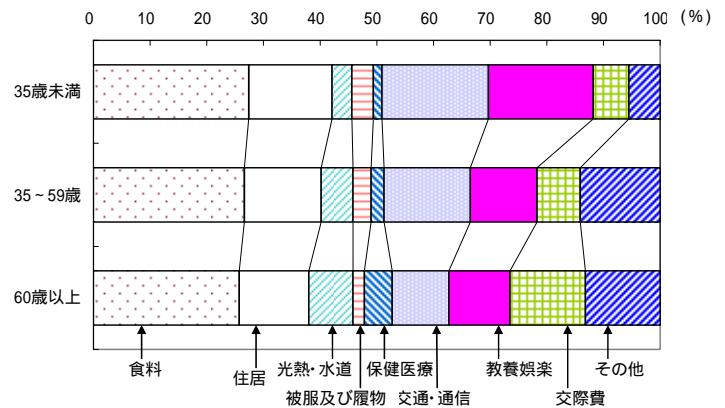
一口に単身世帯の消費といっても、男女別や年齢階級別に支出額やその内訳は大きく異なります。そこで、今回は家計調査の結果から、男性の単身世帯の消費についてみてみましょう。

交際費の割合が高い60歳以上の世帯

まず、年齢階級（3区分）別に平成18年における消費支出の費目別構成比をみてみましょう。

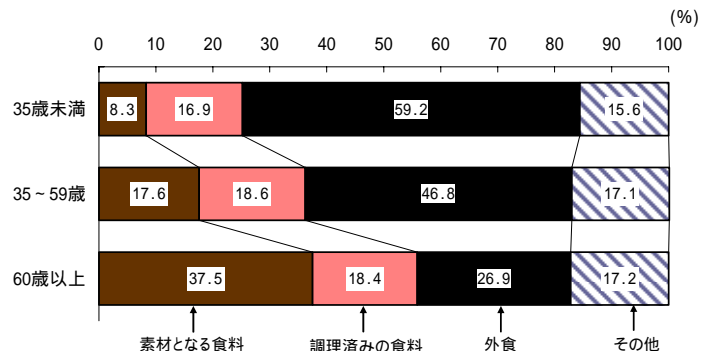
35歳未満の世帯では、「交通・通信」、「教養娯楽」、「住居」などの割合が他の年齢階級に比べて高くなっています。35～59歳の世帯では、仕送り金などの「その他」の割合が他の年齢階級に比べて高くなっています。60歳以上の世帯では、「交際費」、「光熱・水道」、「保健医療」の割合が高く、特に「交際費」は13.3%と、35歳未満の世帯の6.3%に比べ7ポイント高くなっています（図1）。

図1 単身世帯（男性）の年齢階級別支出の構成比（平成18年）



注)「その他」は、諸雑費、便途不明金、仕送り金のほか家具・家事用品と教育を含む。

図2 単身世帯（男性）の年齢階級別食料の構成比（平成18年）



注) 素材となる食料：穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物
調理済みの食料：菓子類、調理食品
その他：油脂・調味料、飲料、酒類、賄い費

若年層の食料に占める外食の割合は約6割

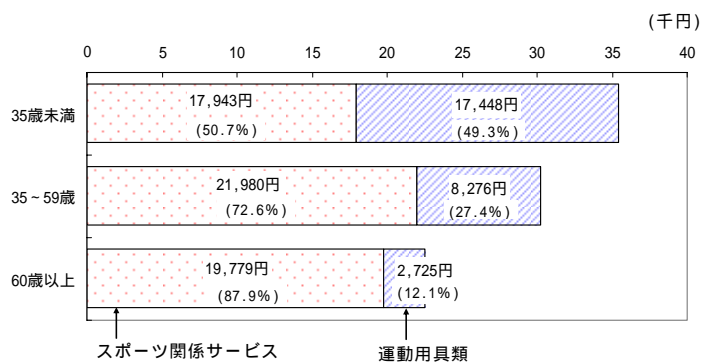
次に、費目別の構成比では大きな差が見られなかった「食料」について、さらにその内訳をみてみると、「外食」の割合は、35歳未満の世帯で59.2%と最も高く、年齢が高くなるにしたがって、その割合は低くなっています。一方、「素材となる食料」の割合は、年齢が高くなるにしたがってその割合が高くなっており、ライフスタイルの違いがみられます（図2）。

健康が気になる中年男性

最後にスポーツ関係費^注)について、平成18年の支出額をみてみましょう。

35歳未満の世帯は約3万5千円、35～59歳の世帯は約3万円、60歳以上の世帯は約2万3千円となっています。そのうち、スポーツ関係サービス（月謝、観覧料、施設使用料）に対する支出金額を年齢階級別に比較すると、35～59歳の世帯が最も高く、次いで60歳以上の世帯、35歳未満の世帯の順となっています。最近、メタボリックシンドロームが話題となっている中で、中年男性をはじめ、働き盛りの層で運動への意識が高いことがうかがえます（図3）。

図3 単身世帯（男性）の年齢階級別スポーツ関係費への支出金額（平成18年）



注) スポーツ関係費は運動用具類のほか、スポーツ月謝、スポーツ観覧料、スポーツ施設使用料を含む。